

# 徳大病院支援チーム帰県

## 「薬や人効率的配置を」 被災地の実態を語る



西村匡司氏

東北大病院からの要請で、宮城県内の避難所で診療をしていた徳島大学病院医療支援チームが3日間の活動を終え、帰県した。チームリーダーの西村匡司医師(55)は

### 被災地の実態を語る

「携帯電話が通じず、どこに医師がいて、どの薬が足りないかが全く分からない状態だった」と大災害時の医療の難しさを吐露した。

西村医師によると、チームは18日午後東北大病院に到着。同病院災害対策本部からの指示を受けて、登米市立沼田病院へ向かったものの、すぐ

の避難者が身を寄せ、石巻市の万石浦中学校で診察に当たった。断水で傷口を洗えず化膿した人、薬がなく不眠症になるせんそく患者、脱水症状を起こす子どもも。小さな保健室は患者であふれ、廊下には行列ができた。

西村医師は「もっと効率的に医師や薬を送り込まねば」と言う。徳島大学病院は25日、第2陣の医療支援チームを宮城県へ派遣する。

20日には徳島県の医療救護班に請われ、約千人

(森麻実)